

言葉の影響力

(原文)

加藤 美羽 (17歳)

東京都

昭和女子大学附属昭和高校

私が思う世の中をよりよくするためにすべき事は、簡単に言うてはいけない言葉を軽々しく口にしてないことです。この事を思ったきっかけとして、最近の社会問題である自殺率が増えている事が関係しています。近年、「若者自殺者」という言葉が出るほど15～24歳の若者といわれる年代の自殺率が上がり続けています。その原因として社会の問題が大きく関わっているとされています。社会の問題とは具体的に言うと価値観の違いです。互いに違う人なのだから価値観がずれていてもおかしくないのに自分と合わないから気に入らないと思いきじめなどに発展するケースも少なくないようです。また親などから、理想像を押しつけられプレッシャーに負け死を選択する事も多いようです。このように自殺の理由などを見てみると人間関係のトラブルが巻き起こす問題だと思います。しかし、いじめなどは昔からもありつい最近出来た問題ではありません。現代の若者の心が弱く死という選択をしているような気がします。問題は若者ではなく大人が悪いと非難されがちだが私は若者の意志の弱さも問題だと思います。しかし、私が思う一番の問題はもう少し違う事だと思います。それは、死という言葉簡単に口にする人が多いことです。実際は思っていないでも、「死ぬ」という言葉で疲れたや笑すぎて辛いなど明るい事にも簡単に使う人が増えています。私もその一人です。決して軽々しく口にしても良い言葉では無いのに「みんなが口にしてから」という理由で言うても良い言葉だと感じどんどん使う人が増えてしまいます。実際色々な事で追いつめられた人もその簡単に発せられた死という言葉の思い出し自殺に向かう人も少なからずいると思います。また、死という言葉をよく聞くことから少し身近に感じてしまう事もあると思います。私もよく簡単に口にしてしまったりする事もあるので気をつけなければいけないと思いました。また自分自身も死という言葉の口にする事で言葉の重みをちゃんと理解せずに使っている気がします。言葉の本当の意味を考えたり理解せず、色々な人が使っているからといって流されてはいけません。言葉遣いに気を付けるという面もそうですが、言うて良い言葉とってはいいけない言葉の分別は分ける事が大切だと思いました。

また、死という言葉に限らず周りの人や自分の気持ちを下げるようなマイナスな言葉は避けるべきだと思いました。言葉というのは影響がとても大きい物です。たとえ思ってもいない事でも軽々しく口にすればまともにその言葉を受け取る人もいます。時が過ぎ時代も変化を遂げたり進化していくのと同時に、その時代に生きている人達の言葉の変化があるのは当然の事です。だからといって流行り

にただ乗るだけではなく間違っものは違ふと正すべきです。ある一言で人が変わったり勇気づけてもらえるように、ある一言で追いつめてしまったり苦しめてしまう事もあるほど言葉選びというのは難しいものです。今の世の中には言葉の影響力というものを理解する事が大切だと私は思います。